

平成 30 年 7 月 20 日  
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構  
核燃料・バックエンド研究開発部門  
東濃地科学センター

瑞浪超深地層研究所の換気立坑深度 200m 接続部における  
火災に関する原因と対策について

- 平成 30 年 5 月 16 日（水）午前 10 時 30 分頃に換気立坑深度 200m 接続部の計測ボックスが燃えた火災（5 月 16 日 プレス発表済み）について、瑞浪市消防本部及び岐阜県警察（科捜研）による原因究明と並行して、機構において、火災や電気に関する外部専門家の助言をいただきながら、原因究明と対策等について検討を重ねてきました。
- その結果、火災発生原因として想定される事象として 4 項目を抽出し、各項目に対する再発防止対策を取りまとめ、実施しました。この再発防止策については、瑞浪市消防本部に報告しご確認いただきました（6 月 20 日）。

**【参考】火災発生原因として想定される事象の抽出と再発防止対策の策定**

機構において、火災発生原因として可能性のある事象として、以下の 4 項目を抽出し、これらに対し再発防止対策を取りまとめ、実施しました。

（想定される事象の抽出）

- ① 電気：通信親機（地上）からの通電による短絡・発火
- ② 化学反応：亜酸化銅化した端子への通電による発火
- ③ 溶断作業：ガス溶断に伴う火花・溶断片による発火
- ④ その他（小動物等）：小動物・昆虫による端子盤の短絡・発火

（火災原因として想定される事象に対する対策）

上記①、②、④に対する対策（対策は共通）として、以下を実施しました。

- ・計測を完了した機器等の撤去またはケーブル類の全離線。
- ・坑内通電設備の内、これまで点検していなかった、または点検記録を残していなかったもの（例えば計測用制御盤等）についても定期点検に追加し記録。

上記③に対する対策として、以下を実施しました。

- ・火花や溶断物の落下防止対策の改善。
- ・スパッタシートなどの不燃シートによる養生範囲の拡大。
- ・作業開始時に作業手順等の現場立会確認の励行。

なお、溶断作業の再開にあたっては、対策を具体化し、確実に実施していきます。

以上